

【 刑 法 】

問題1及び問題2の両方に解答しなさい。

問題1

暴力団組員の甲は、覚醒剤を常用しており、覚醒剤を使用すると幻覚妄想の症状を呈し、その状態下で他人に暴力を振るうことがしばしばあった。甲は、覚醒剤の薬理作用が消えた後に他人からそのような状態にあったことを告げられており、甲自身もそのことを自覚していた。

某日、甲は、同じ暴力団の組員Vから、「シャブ中」※と言われたことに立腹し、覚醒剤を使用して勢いをつけた上、Vを木刀で殴打して痛めつけてやろうと決意した。甲は、覚醒剤を自分の腕に注射し、注射後まもなく、幻覚妄想の症状を呈した状態になった。甲は、Vに近づき、手にしていた木刀でVの頭部、背部を複数回殴打し、Vに加療2週間を要する頭部及び背部打撲傷を負わせた。

甲が、Vを木刀で殴打した際、心神喪失状態であった場合について甲の罪責を論じなさい（ただし、特別法違反の点を除く）。

※シャブ中…覚醒剤中毒者を意味する隠語

問題2

乙は、Aに対し日頃から恨みを抱いていたので、Aを痛めつけてやりたいと思い、そのことを友人丙に相談したところ、丙は、Aを痛めつけることに賛成し、一緒にAを痛めつけることにした。乙と丙は、Aに顔を見られないようにAの背後から角材で殴って痛めつけることにしようと話し合った。

某日深夜、乙と丙は、帰宅のため道路を歩いていたAの背後からAの頭部をめぐらしてそれぞれ角材を振り下ろしたところ、Aは頭部から血を流してその場に倒れて死亡した。それを見た乙と丙は、強く殴りすぎたためにAが死亡してしまったことがわかり、急に恐くなった。乙は、このままではAを恨んでいる自分が疑われると考え、丙に対し、「Aが強盗に襲われたように装うことにしよう。」と持ちかけた。乙は、Aの上着ポケットから財布を抜き取り、「財布をどこか遠くに持ち去って捨ててくれ。」と言いながら丙に渡した。丙は、現金が欲しいと思ったので財布ごと自分の物にしようと思ったが、そのことは言わずに、「わかった。」と返事をした。乙と丙はその場から逃げ、丙は現金入り財布を自分の物にした。

乙及び丙の罪責を論じなさい（ただし、特別法違反の点を除く）。

※ 解答用紙の記入に際しては、問題 1、問題 2 と見出しをつけて記入しなさい。